

令和3年度 自己評価

社会福祉法人わたげのほし
花園こども園

1. 園の教育・保育目標

生き生きと心豊かに遊び、安心して穏やかに過ごすことで、生きる力に溢れた、健康でたくましく、賢い子どもの心身を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

- 新型コロナウイルス感染の予防対策を行いながら、必要な体験、経験が出来るためにはどうしたらよいか、常に話し合い方法を見いだしながら、学びの機会を大切にしていく。
- 自分で考え行動できる力を、乳幼児期から継続して育てていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
教育・保育活動について	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染対策として、これまでの行事や活動内容を見直し、乳幼児期の子どもたちの成長にとって必要なことは何か、全職員で意見を出し合い、これは体験させたいということは、感染対策をとりながら実施した。・職員及び3歳以上児のマスク着用による、情緒、対人コミュニケーション力の形成が懸念され、特に0～1歳児については、優しい言葉かけや温かな眼差し、所作を心がけた。・各担任それぞれが、クラス内または全体で考えや思いを伝え合い、連携しながら必要な改善が図れているので、今後も続けていきたい。	B
研修等資質向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・感染対策のため、中止になった研修も多かったが、リモート研修も増え、移動時間がなくなった事で、子どもたちに関わる時間が確保できた。ただ、研修報告の機会が思ったほど時間が取れず、今後の課題となっている。・定期的にクラスリーダー会、食育検討会、クラス会、巡回相談、全職員会を実施し、その都度気になる事や教育保育の内容を検討し、充実を図った。	A
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で、できるだけ密集することがないように、コーナー遊びをより充実させたり、広い廊下やなごみや(和室)、ホールなどに分散し、一人ひとりがじっくり遊べる空間づくりを心がけた。・1Fのお部屋(1～2才児クラスの間)にも、共有コーナーとして、粗大遊びや構造遊びが出来る空間を作り、どのクラスからも少人数ずつ遊びに来て、異年齢でお互い意識しながら遊べるようにしたが、感染の心配等もあり、使える時間は今のところ限られている。	A

食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「ごはんのお話」で、栄養士が3歳以上の園児に向けて、「旬の食物クイズ」や「食べ物カルタ」など、手作りの教材で食に興味関心が高まるきっかけづくりを行った。 ・野菜作りなどを通して、苦手な野菜にも関心をもったり、「そら豆の皮むき体験」など、2才児クラスから食材に触れる機会を設けたが、年長児のクッキング体験がほとんど実施出来ない状況となった。 ・各クラス担任と、栄養士、調理士が参加する検討会で、成長に応じた食器の準備、手掴みからスプーン、箸への移行のタイミングなど、細やかに課題などを話し合い、家庭との協調が不可欠なため、保護者の方にもお伝えし、小食、偏食、アレルギー対応などの改善、徹底を図った。 	B
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期に一度ずつ、特別支援学校指導員による巡回相談を実施し、集団生活の中で子どもたちが感じる困り感をできるだけ軽減し、自己肯定感を持ち、達成感や充実感を感じながら、意欲的に生活、遊びに取り組むためには、どんな手立てや配慮があるかをアドバイスいただき、実践に努めた。 	A
地域・小学校との交流活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、園の行事とも地域の方との交流活動は全て中止または参加を見合わせる事となり、貴重な体験が出来なかった。 ・小学校との交流活動も、今回は中止となり、年長児の3月の学校訪問も縮小した形で短時間のみとなったため、小学校への引き継ぎは、対面でより詳しく丁寧に伝達を行った。 ・子育て支援事業「たんぼぼハウス」は、感染の心配が少ない時期のみ、数回、少人数での実施となり、その分おたよりなどを通して、子育てワンポイントアドバイスを伝えるなど、途切れることがないように努めた。 	C
保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策のため、園児、保護者、職員共に玄関・入口での検温、消毒や体調記入など管理を行った。 ・内科健診、歯科検診は、後期のみ1回実施した。 ・学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。 ・3歳以上児クラスでは、食事時の感染対策として、黙食や席の固定、パーテーションの設置などを行い、毎食テーブルメンバーの写真を撮り、拡大予防に努めた。 ・避難訓練を毎月行い、西部自治公民館への全園児一斉避難(災害訓練)を通して、非常用に必要な備蓄用品などの補充を行った。 ・交通安全教室を年2回実施し、安全意識を高めると共に、実際の園外活動で交通ルールの確認を行っている。 	A
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談は感染状況に合わせて見合わせる事が多く、じっくり話を伺う機会がとれなかったため、送迎の際に出来るだけ様子を伝えあうことや、連絡アプリを導入したことで、個別に細やかな伝達が可能になった。 ・主な行事も中止や規模を縮小したり、園児のみで行ったことで、園での姿や集団の中での成長を感じてもらう機会が少なかった。少しずつ、感染対策を講じながら、できる範囲で機会を設けていく。 	B

評価結果の表示方法

A = 十分達成されている B = 達成されている C = 取り組まれているが、成果が十分でない

D = 取り組みが不十分である

4. 総合的な評価

結果	理由
B	<p>・新型コロナウイルス感染症という大変な事態が起こり、その対応に苦慮した1年であった。国や市からの情報・指導を元に、必要な感染対策を講じ、園内で感染が広がらないよう全職員で話し合い、必要な機器を購入したり、保護者へ協力を仰ぎながら乗り越えてきた。</p> <p>・これまで当たり前に行っていた教育・保育や行事が出来ない状況となり、改めて子どもたちにとって必要なことは何かを考えるきっかけとなった。どうしても必要と思うことは、どうしても実施できるかを考え、人数を制限したり、内容を見直すなどすることで、できる限り子どもたちに必要な経験、体験が出来るよう配慮した。反面、慣習として行ってきたことが、それほど必要と感じなかったり、今の時代や子どもたちに取って必要な事を考える良いきっかけとなった。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教育・保育活動について	・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた園の活動が大幅に制限されることになった。今後は感染防止対策を徹底しながら、必要な活動内容を再開できるよう、連携を図りながら進めていく。
・職員間、保護者との情報共有	・業務のICT化導入により、従来の作業量が軽減され、共有できる情報が増えた反面、情報の背景にある物事を理解する為にも、直接的な対話を充実させる必要がある。できる限り対策をとりながら、面談等の機会を設けていく。
・施設の整備	・立岩園庭の整備・改修や、屋上園庭の緑化を進めていく。施設設備も徐々に劣化が見られてきているため、必要に応じて順次点検、改修を行っていく